

高校生の海外修学旅行が訪問国に対するイメージと国際理解に及ぼす効果

The effect of a school trip abroad on high school students' image of the country where they visited and their international understanding

相 川 充

Atsushi AIKAWA

教育心理学*

要 旨

本研究は、高校生の海外修学旅行が訪問国に対するイメージと国際理解に、肯定的な影響を及ぼすかどうかを統制群との比較を通じて検討したものである。調査対象者は県立商業高校2年生、修学旅行先がシンガポールの参加群120名、不参加群122名であった。両群に対して、修学旅行の前後2回、シンガポールの国と人に対するイメージ調査、国際理解の程度を調べる質問を実施した。その結果、シンガポールの国と人に対するイメージは、不参加群では、旅行前後でほとんど変化がなかったが、参加群は、旅行後に、用意したSD尺度項目の半分以上において有意な変化を示していた。また、国際理解度の変化を調べたところ、修学旅行前には参加群と不参加群に差がなかったが、旅行後には、参加群において有意な変化が認められた。このような結果を踏まえて、本研究では、海外の国や人に対する高校生のイメージや国際理解に肯定的な変化をもたらすような海外修学旅行のプログラムを構成する必要性が論じられた。

* Tokyo Gakugei University (4-1-1 Nukui-kita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501, Japan)